

8 月 28 日 年間第 22 主日

謙虚に歩む

ルカによる福音書 14 章 1、7～14 節

¹安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。

⁷イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。⁸「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、⁹あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。¹⁰招待を受けたら、むしろ末席に行き行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。¹¹だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」¹²また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。¹³宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。¹⁴そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

他の朗読：コヘレト 3：17～20, 28, 29 詩編 68：4～7, 10, 11 ヘブライ 12：18, 19, 22～24

Lectio …読む

今日私たちは、イエスがファリサイ派の指導者の家で食事している場面に加わります。食事に招待されたすべての客は、イエスがどうふるまうかを観察しています。彼らが気づかないのは、イエス自身が彼らの思い上がったふるまいを観察している、ということです。

イエスの時代において、招いた主人に近い席が上席であり、ファリサイ派の人の客たちは、皆そのような席のひとつを狙っていました。

イエスは食事に招待された客にもっと良いふるまいを教えるために、この機会を利用します。イエスの説明は、箴言 25 章 6、7 節にまとめられているユダヤ教の教えを思い出させます。「王の前でうぬぼれるな。身分の高い人々の場に立とうとするな。高貴な人の前で下座に落とされるよりも 上座に着くようにと言われる方がよい。」

もちろん、もし招いてくれた人がイエスが何者か気づいていたならば、彼はすぐイエスに名誉のある席を譲っただろう、ということは皮肉です。

その後、イエスは貧しく、身体的に恵まれていない人のように、お返しすることができない人々への親切なもてなしと寛大さについて強調します。改めて私たちの態度が問われています。私たちはうぬぼれや利己主義のため、他の人々を排除してはいないでしょうか。

イエスの心遣いはいつもすべての人に及んでいます。彼は、社会的地位のある人としてみなされていない人々と共に時を過ごしました。神の前では私たちは皆、救いを求めている罪人なので、人間によってつくられた社会的地位に関わらず、神の国はすべての人に開かれるべきであり、事実開かれているのです。

Meditatio …黙想する

「皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、『神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる』からです。だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの日には高めていただけます。」(1ペトロ 5 章 5、6 節)

使徒ペトロはこのイエスのことばを文字通りに受け止め、彼も教えました。

イエスはしばしば聴衆に、謙遜について思い出させました。他人に対して謙遜な態度を持つことがなぜこれほどに大切なのでしょうか。高慢さはなぜこれほど危険なのでしょうか。

あなたは自分の家にどのような人を招待するのか、ということについて考えてみてください。イエスの教えは、あなたの客の選び方にチャレンジを与えているのでしょうか。

Oratio … 祈る

今日の箇所から、謙遜と親切なもてなしについてあなたに語ってくださるよう神に願いましょう。

詩編 68 編 2～11 節を読んでみてください。神の偉大さと、貧しい者や孤独な人、やもめ、孤児と囚人に対する神の心配りの細やかさのコントラストに目を留めましょう。そのような状態に置かれている人々のために祈りましょう。聖霊が、何人かの具体的な人々を思い浮かばせてくれるかもしれません。神もまた、あなたに出来る具体的な助けを示してくださるかもしれません。

Contemplatio … 観想する

フィリピ 2 章 3～11 節を読んで、イエスが私たちに示してくださった謙遜と奉仕の模範について考えてみてください。来る週の間、謙遜に向かってあなたが踏み出すことができる小さな一歩を、神に示していただきましょう。